

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年5月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1571700465		
法人名	特定非営利活動法人 心つくし会		
事業所名	グループホームありがとうの家		
所在地	新潟県五泉市村松甲5600番地1 (電話) 第1:0250-58-8313 第2:0250-58-7446		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	2月28日

【情報提供票より】(20 年 12 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12人、非常勤 2人、常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1階	建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(130,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (20 年 12 月現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2		7 名	
要介護3	6 名	要介護4		3 名	
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 86.7 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤産婦人科医院、新津信愛病院、いいはまクリニック、梁取医院、石首根医院、南部郷総合病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、法人が運営している有料老人ホームや保育所、こども園、デイサービスセンター等の同じ敷地内に併設されており、緊急時の協力体制、献立作成の協力、健康面の指導、職員研修等、様々な支援体制が整っている。周辺には商店街や村松公園があり、利用者が暮らしやすい恵まれた環境である。ホームの職員は明るく温かな雰囲気であり、利用者へは優しく丁寧に対応している。法人理事長も日常的に利用者と直接関わり、安心できる顔見知りの関係が作られている。家族に対しても、利用者の近況を記した直筆の手紙を送ったり、必要な方には連絡ノートを用意したりと、家族の気持ちに寄り添いながら関係づくりをし、利用者の支援に結び付けている。食事にも重点をおいており、手作りを基本として、地場産やホームの畑で取れた食材を使用した美味しい食事が提供されている。今後も法人が一丸となって連携しながら、地域に根差した福祉の拠点としての役割を發揮することが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について職員間で話しあい改善に向けて積極的に取り組んだ。「家族や地域への浸透」では、納涼祭の開催や芋煮会の開催をこども園と合同で計画し、ポスター・チラシ等で地域の方々に参加を呼びかけた。多くの参加を得て、地域との関係作りができた。「マニュアルの整備」では、研修会の内容や職員会議の中でケア内容について話し合いを行い、適宜マニュアルの追加訂正を行うなど見直しがされた。「職員のストレス軽減に向けた取り組み」については、以前より職員から要望のあった休憩室のエアコンを設置したり、各自のロッカーを用意したりと、環境づくりに努めた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義については管理者、職員間で十分に共有されている。自己評価は、日々のケアの振り返りという意義を踏まえて全職員で話し合い実施した。見出された課題については、改善に向けて前向きに対応している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、ホームの運営状況の報告、監査結果や外部評価の結果についても話し合いがされおり、サービスの向上に活かされている。また、市の担当者からも出席してもらっており、運営に関する問題解決に向けた助言も得ている。しかし、出席者の都合等により会議開催が不定期となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の希望や状況に合わせて、居室に家族と職員との「連絡ノート」を設けるなど、日頃から家族が相談や意見を言いやすい関係作りに努めている。また、玄関に苦情・相談意見箱を設置して収集に努め、寄せられた意見や苦情については会議やミーティングなどで検討し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 年4回発行のホーム広報紙「ありがとうだより」を地域に回覧して、情報発信に努めている。食事に地元産の食材を使っていることから、近隣の農家の方との関係も出来ており、季節ごとの野菜をいただいたり、年1回ホームの食事会に招待して食事も味わっていただくなどしている。納涼祭や芋煮会などの行事にも多くの住民の方からも参加してもらっており、日ごろの取り組みが理解され地域との馴染みの関係ができてきている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住みなれた地域で共に安心して暮らしていけることを大切にしたいホーム独自の理念をつくりあげており、職員が意識しながら実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや、月1回の職員会議等の場など、機会あるごとに理念を共有して振り返りを行い、理念の実現のために前向きに取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時に利用者や家族にホームの理念を説明している。また、年4回発行のホーム広報紙「ありがとうだより」等を利用して、地域への情報発信に努めている。同法人のこども園と合同で開催する夏の納涼祭や秋の芋煮会には、地域の方から多くの参加を得ており、このような行事の機会にもホームの取り組みを理解してもらうよう働きかけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の農家の方から季節ごとの野菜をいただいております。そのお礼として年1回ホームの食事会に招待し交流している。納涼祭や芋煮会などの行事にも多くの住民の方から参加してもらっており、地域との馴染みの関係が出来上がってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は、管理者、職員間で共有がなされている。職員それぞれが自己評価を行い、職員会議で改善に向けた具体的な話し合いが行われている。前回の外部評価結果についても職員間で話し合い改善に向けて取り組んだ。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの運営状況の報告、監査結果や外部評価の結果についても話し合い、サービスの向上に活かしている。また、ホームの行事に合わせて会議を開催するなど、ホームの多様な取り組みを理解してもらえるよう工夫している。しかし、出席者の都合などで開催が不定期になっている。		会議では、報告や情報交換以外にも率直な意見交換がなされ、運営に活かされている。今後は、参加メンバーとも話し合い、おおむね2ヶ月に1回定期的にも実施できるよう開催方法の工夫を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は毎回運営推進会議に参加している。また、管理者や法人本部の役職員と市の担当者とが顔見知りの関係になっており、困った時にはいつでも相談できる関係が出来ている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部研修に職員が参加するとともに、そこで学んだことを他の職員へ伝達する場を設けている。マニュアルも整備されており、日々の業務の中で職員同士で注意し合ったり、職員会議で話し合うなど、常に虐待の防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の生活や健康状態等については、その都度家族に報告している。職員の異動についても面会時を利用して報告がなされている。金銭管理については、領収書・出納帳関係書類にて毎月報告がなされている。ホーム便りも年4回発行し、ホームの様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は日頃から職員に対し、利用者や家族の声を聞く姿勢を大切にすることを伝えている。苦情への対応体制・担当者を定めるとともに、苦情・相談箱を玄関におき、苦情や意見の収集に努めている。また、家族の希望や状況に合わせて、居室に家族と職員との「連絡ノート」を設けるなど、日頃から家族が相談したり意見を言いやすい関係づくりに努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月1回の職員会議や日々のミーティング等を利用して、積極的に職員の意見や要望・提案を聴いている。また、日頃から職員とのコミュニケーションを密に図るよう努め、意見を言いやすい関係づくりに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、離職等のやむを得ない場合を除き最小限にとどめている。異動を行う際には、個々の利用者に応じた説明をしたり、家族に対してや運営推進会議でも説明をするなど、利用者・家族のダメージ軽減に配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが行われている	ホーム独自のマニュアルが整備され、スタッフルームに置いてあり、職員が必要な時に確認することができる。具体的なケア内容は職員会議やミーティングで検討し、適宜見直しをしており、その都度マニュアルも追加や訂正をして、現状に即したものとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が研修を受けることができるよう勤務調整等を行い、法人内外の研修、講習を受ける機会を確保している。受けた研修の内容は、職員会議や復命書を通して他の職員にも周知されている。新人研修も実施し、他法人のホームに実習受け入れを依頼するなど、工夫して職員育成に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修の実習の受け入れや、他法人のホームに見学や実習に行くなど、他の事業所と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に向けて前向きに取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、日頃から様々な機会を捉えて職員の話聞くように意識し、また、観桜会、暑気払い、忘新年会等の各種親睦会も開催して、職員のストレス軽減に努めている。法人としても、前回の外部評価の結果を受け、休憩室の確保、私物を収納するロッカーを整備する等、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時などには一緒に食事をするよう勧めたり、入居前の体験利用もできるようにし、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるようにしている。入居後も安心して過ごせる環境を準備するために、自宅や以前に利用していた施設に職員が出向いて情報収集し、ホームでの生活に活かしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者や職員は家族であるという考えの元、共に支えあう関係作りに努めており、利用者一人ひとりの持っている能力を引き出せるよう食事の準備や掃除等は職員と共同で行っている。管理者、職員だけでなく、法人理事長も日常的に利用者や直接関わり、生活の中で喜怒哀楽を共にしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡ノートやホーム便り、面会時などを利用して、利用者の日々の様子を説明をし情報共有している。利用者の受診や外出の支援にも、家族の負担にならない範囲で協力していただくよう働きかけ、共に利用者を支えていく関係づくりに取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での聞き取りなど、できる限り本人の思いや意向の把握に努めている。思いや希望を言葉にすることが困難な利用者に対して、声かけをしたりドライブに誘ったり、本人が好きな活動を働きかけるなど、その人らしく暮らせるよう支援している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、入居に至るまでの経緯等、基本情報シートで情報収集したり、利用者・家族から聞き取るなどして把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人の思いや希望等を把握すると共に、家族からの情報や主治医の意見などを介護計画に取り入れるようにしている。また、全職員からも情報収集して課題分析を行うなど、チームとして協働して介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に6ヶ月ごとに見直しを行っている。短期目標の期間を1ヶ月、3ヶ月等としている場合は、それぞれの期間終了時に見直しをしている。また、状況が変化した際には随時カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の付き添い、希望の理美容への送迎、家族との外食時の送迎等、利用者や家族の状況やニーズに応じて可能な限り対応している。また、家族に対しても、ホームの食事を提供したり、宿泊できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ病院への受診については、利用者や家族の状況に応じて可能な限り支援している。また、協力医院の医師が定期的には月1回、その他体調不良時に随時往診してくれている。この医師が運営推進会議のメンバーにもなっており、ケアに関するアドバイスを頂く等、協働体制が築かれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の病状回復が見込めない場合は、ホームで医療的な対応は出来ない旨を入居時に説明している。このような状況になった場合は、家族と話し合い、他施設への移行の支援も行なっている。		

外部	自己	項 目	(実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者への言葉かけや対応は、利用者の尊厳を意識した丁寧なものであり、かつ、さりげなく自然である。個人記録等のファイルはスタッフルームの鍵付の書棚で保管されており、利用者や来訪者の目に触れないよう配慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の買い物や散歩、入浴など、可能な限り利用者のペースを大切に、職員側の都合で時間を区切ることなく、一人ひとりの状態に沿った支援を行なっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理や片付けを行える利用者は少ないが、可能な範囲で一緒に準備を行っている。同じテーブルで同じものを職員も一緒に食べ、楽しい雰囲気づくりをしている。また、法人内他施設の調理担当職員から講習を受けるなどして、よりおいしい食事を提供できるように努めている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。プライバシーも配慮されており、排泄の誘導や声かけはさりげなく行なわれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットで交互に週3回を入浴日としているが、利用者から希望があったり、汗をかくなど体が汚れた場合にはいつでも、入浴日であるユニットで入浴していただいている。安全を第一に考え、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援し、時間帯やお湯の温度もその人の好みに合わせている。今のところ、夕食後の入浴を希望するご利用者はいないが、夜間浴等の希望があった場合は希望に沿った支援をしていく予定である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その日の利用者の状況や希望に応じて、利用者や相談しながら、買い物に出かけたり、調理、盛り付け、後片付け、掃除等をお願いしたりするなど、一人ひとりに応じた役割の場面が生活の中で自然に用意されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、馴染みのお店に買い物に出かけたり、自宅への外出や散歩、車でのドライブ等の支援を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するホームのマニュアルが整備されており、身体拘束に関する研修にも機会があることに参加している。職員は身体拘束を行わないという認識を持ち、拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝は利用者が起きだしたら開錠し、夜は就眠する頃に施錠するなど、利用者の生活時間帯は玄関の鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。玄関の戸が開くと音楽が流れるようになっており、さりげなく出入りを察知している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一事故発生した場合は、その日のうちに勤務している職員間で原因や再発防止の検討がなされ、利用者一人ひとりに応じた再発防止策を検討し、全職員で共有している。事故防止マニュアルも整備されている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時対応のマニュアルが整備されている。敷地内のデイサービスセンター看護師との連携もとれており、日常的に医療面のアドバイスや指導、情報提供を受けている。また、職員全員が年1回定期的に、消防署による救急法の講習を受け、緊急時に備えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	近隣住民や消防署の協力を得て、年3回の消火・通報・避難訓練を行っている。また、同一敷地内にある他施設から協力が得られる体制も整備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の摂取量を日誌に記録して把握し、体調の悪い時には栄養補助食を使用したり、個々の状態に応じて粥にしたりトロミを付けるなど、必要な摂取量が確保できるようにしている。また、法人内他施設の調理担当職員から講習を受け、利用者個々の嗜好も考慮しながら、よりおいしい食事を提供できるように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングとキッチン是对面式になっており、おいしそうな匂いや茶碗を洗う音など生活感を感じることができる。小上がりの畳コーナーもあり、食後に横になるなど利用者が思い思いに過ごせるスペースがある。ホーム全体の清掃が行き届き衛生が保持され、居心地のよい空間作りがなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には備え付けのクローゼットや物干し竿等が用意されているが、利用者が自宅で使っていた馴染みの物品を持ち込んでもらったり、手作り作品を飾る等、利用者・家族と相談しながらその人らしい居室づくりを行っている。</p>		